

スクーター ビーノ

Scooter Vino

石井喜好 Kiyoshi Ishii

●モーターサイクル事業本部 第4プロジェクト開発室

1 はじめに

本稿が皆さんの目に触れるころ、街にビーノの姿を見かけた方もみえると思います。印象はいかがですか…。

見ておわかりのように、このモデルの命は形、色、質感といった要素が融合したスタイリングにあります。

1996年YB-1が世に出て、「レトロ」や「ファッション」といった言葉でくれる製品が、多くの若者の支持を得ています。ビーノは、スクーターでそれら若者の感性に響くものを作ってみようということで生まれてきました。

ところで、ここ数年のスクーター需要傾向を見ると、スクーターに乗ってみたいという若者がかなり減ってきています。そして、実用の足、道具として、必要と思う人だけが買うという傾向が年々増えています。ビーノには、外観はもちろん価格にも彼らが求めやすい配慮をして、スクーターの利便性や実用性を、あらためて若者たちに知ってもらおうという願いが込められています。

では次に、もう少し詳しくビーノの特長についてご紹介したいと思います。



図1 「ビーノ」

2 スタイリング

- おもしろさとなつかしさを感じさせる全体のフォルム。
- カバーのないオートバイ感覚のパイプハンドル。
- 丸形のヘッドランプとフラッシュが埋め込まれたレグシールド。
- 鞍をイメージさせる、サドル調大型シート。
- レトロのにおいて、可動フロントフェンダとトレーリングリンクフロントサスペンション。
- らしさを醸し出す「光り物」たち。
ハンドル、バックミラー、メーター、フラッシュ、
フロントフォークカバー、アシストグリップなど。

ヤマハらしさや個性を持ちながら、ふつうのスクーターユーザーから離れすぎない、どこかなつかしさのあるまとまりをねらっています。

3 機能・性能・品質

3.1 機能

スクーターとしての必要な機能を持たせ、実用面で充分満足できることも重要なポイントにしています。

- (1)機能評価の高いモデルである当社アプリオと同等の機能。
 - 1)トップクラスのヘルメット容量 (20L) とフューエルタンク容量 (6L)
 - 2)明るいハロゲンヘッドランプ (35W/36.5W)
- (2)アプリオを越える機能。
 - 1)給油性を向上し、1L缶がまるまる入るオイルタンク。
 - 2)広いフラットなフットスペース。
 - 3)広いシート座面。
 - 4)クッション性に優れたトレーリングリンクフロントサスペンション。

3.2 性能

性能面では、レトロだからといってカメにするのは考えものですので、これもアプリオに遜色ない機動性を持たせて、機能性能面では、より広いお客様にこたえられるようにしています。

3.3 品質

忘れてならない品質や信頼性といった商品性を支える大切な部分では、「だれでもこつなく簡単に」を目指して、始動性を向上させた新型キャブレタの採用を初め、より高次元な建て付け、合わせ、しっかり感を持つ外装品類の造り込みなど最大限の施策を入れ、お客様満足度を最大限に高めるようにしてあります。

4 まとめ

このように、ビーノは「レトロもいいな、悪くないな。」と思っているスクーターのお客様であれば若い人から年配の方まで、だれにでも使っていただける商品にしました。新しい先進的な商品ではなく、生活の中の身近なすてきな商品としてお客様の心をつかみ、息の長い商品になってくれることを願いつつご紹介を終わりたいと思います。

余談になりますが、「ビーノ」「VINO」はイタリア語でワイン、葡萄酒を意味します。

街角には既にレトロなスクーターがたくさんあります。皆それぞれに個性的な味を主張しています。ビーノはどんなワインでしょうか…。